

【平成29年度】12月～2月

■平成29年12月20日（水）1年生メンバー2名、2年生メンバー2名参加

期末考査や学校行事などでしばらく活動ができない状態が続きましたが、今年の締めくくりとして、ささやかなクリスマス会をもちました。1年生は英語表現ⅠのT.T.で、クリスマスの歴史的背景や、諸外国と日本とのクリスマスの違いを学んでいたのので、その応用的な活動になったかもしれません。

クリスマス会ということで、メンバーはお菓子をもち寄って、それぞれ家庭などでどのように過ごすか、また、幼少のころの思い出も入れながら、楽しく語り合っていました。

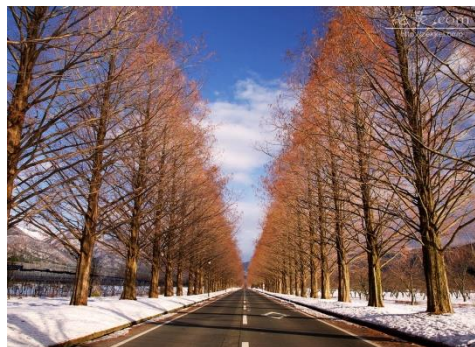
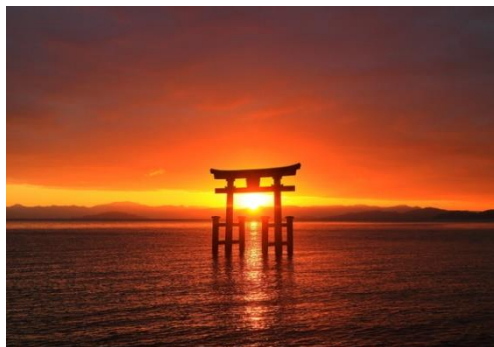


Merry
Christmas

■平成30年1月10日（水）1年生メンバー5名、2年生メンバー2名参加

新年最初のHASECです。今日は、まず、新年の挨拶のあと、冬休みをどのように過ごしたかについて、一人ひとり英語で発表し、そのあと一人最低1回、メンバーの体験談に質問や関連意見を述べる時間をもちました。

家族旅行を楽しんだ人、海外（アメリカ合衆国）に旅行してきた人、大阪へ友人と遊びに行ってきた人などさまざまです。



A L Tのマリ先生は、A L T仲間で集まったり、友人の自動車でびわ湖一周をし、雪化粧した周囲の山々、湖面に浮かぶ白髭神社（高島市）、メタセコイヤ並木（同）、そして温泉も楽しんできたとのこと。それに、日本留学中（大阪府枚方市）にお世話になったホストファミリーを久しぶりに訪ね、旧交を温めるなど、有意義な過ごし方をされたようです。

さらに、フレンドシップカップレシテーションコンテストに参加するメンバー5名は、今日から本格的に練習を開始しました。

今年も、英検合格やスピーチコンテスト入賞など、メンバー全員が、自らの目標に向かって邁進して行ってほしいものです。

■平成30年1月17日（水）、24日（水）、31日（水）、7日（水）

1年生メンバー3名、2年生メンバー2名参加

今年度最後の公式行事である第23回フレンドシップカップレシテーションコンテストを前に、放課後の限られた時間、集中した練習に取り組みました。

■平成30年2月14日（水）

1年生メンバー4名、2年生メンバー3名参加

今日はバレンタインデー。ハセックでは、A L Tのマリ先生より、バレンタインデーの文化的背景を説明していただいたあと、マリ先生の手作りチョコレートをみんなで美味しくいただきました。メンバー達は、国ごとに大きく異なるお祝いの実情を学びながら、日本のバレンタインデーの現状（義理チョコ、友チョコなど）を、ユーモアも交えて報告していました。

また、締切が今月末に迫った『伊藤園お〜いお茶 英語俳句コンテスト』に応募を希望する2名の生徒は、7月の活動で一度練習した英語俳句について再考し、完成させました。結果が楽しみです。

フレンドシップカップも目前。参加するメンバー達は、A L Tから厳しいチェックを受けながら、本番に向けて士気を高めていました。

■平成30年2月17日（土）

第23回フレンドシップカップレシテーションコンテスト。

会場＝滋賀短期大学 1年生メンバー3名、2年生メンバー2名参加

いよいよ、本番がやってきました。今回は会場が初めてとなる滋賀短期大学です。用意された英語の課題文について、確実に覚えた上で、状況や登場人物の気持ちを考えながら暗唱するコンテストです。

県内から23校、94名がエントリーし、本校からは、1年生メンバー2人が初心者部門（B部門）に、1年生メンバー1名と2年生メンバー2名が経験

者部門（E部門）にエントリーしました。3年生は出場できませんので、2年生メンバーにとっては最後の大会となります。

ハセックでは、ALTのマリ先生をはじめJTEの指導の下、昼休みや放課後の空き時間をできるだけ活用して練習を積み重ねてきました。レシテーションの本来の意味でもある「暗唱すること」を早めに完成させ、どのメンバーも情熱をもって、決勝進出を目指して頑張ってきました。

開会式後、まず、予選が始まりました。予選は、部門別に3会場ずつ六つの部屋に分かれ、それぞれの会場から上位3名ずつが決勝に進出できるようになっています。同一校のメンバーが同部屋にならないように配慮され、予告された三つの観点【Memorization(覚えられているか)、Delivery(アイコンタクトなど発表態度)、English(発音、抑揚等)】で審査されます。

昼食後、審査の結果が発表され、経験者部門に出場した松岡愛香ジャスミンさん（1年生）が決勝に進出し、Silver Prize（4位相当）を獲得しました。本人は「発音面でもうひと頑張りできるとよかった」と、やや残念な様子はありませんでしたが、たくさんの聴衆が見つめる決勝の大きな会場の中で、人前で臆することなく発表できたことに、大満足の様子でした。

また、決勝の審査を待つ間、参加生徒達は、六つの予選会場に再び戻り、

14名のALTが準備をしたゲーム、クイズ等の言語活動を展開する「ALTアワー」を楽しみました。ハセックメンバーも、普段とは違った他校のメンバーやALTと、英語をとおしたユニークな活動タイムをもちました。

このフレンドシップカップですが、八幡高校からはここ10年ほど、毎年出場しています。今回は会場の事情で各校からは最大6名までの出場となりましたが、審査の結果にかかわらず、どの参加者も「英語が好き」という共通軸を大切にしながら、他校生や他校の先生方とも交流を深める“make friends”を満喫した、有意義な1日になったことと思います。



(会場の滋賀短期大学)



(メイン会場は満員)



(ALT アワー)



(決勝進出の松岡さん)



(表彰式)



(チーム八幡高校 ALTのマリ先生も応援に来てくれました。)

■今年度を振り返って

上記のフレンドシップカップレシテーションコンテストをもって、今年度の対外行事は終了となります。今年度はA L Tが米国出身のニア先生からカナダ出身のマリ先生へと代わったり、初めての大阪イングリッシュビレッジでの研修や英語俳句コンテスト応募など、新しいことにふれたり、挑戦できた一年となりました。

ハセックは、正規の「部活動」ではなく、本校の英語科が直接運営する「サークル」ですが、何よりもA L Tの献身的な努力に支えていただいているの言うまでもありません。部活での活動の傍ら、毎週1回、英語に興味を有する生徒のために、英語教室でおこなっていますが、メンバー達も、英語にふれる時間を増やし、自らの外国語・外国文化へのアンテナを高められたことと思います。

昨今、大学入試における英語についても、近い将来、さまざまな局面が予想される報道がありますが、どれだけ時代が進んでも、英語は「人と人とのコミュニケーションツール」であることに変わりありません。

生徒達には、今後とも、少しの時間でも大切にし、英語を使う喜びを味わって欲しいものです。

八幡高等学校 英語科